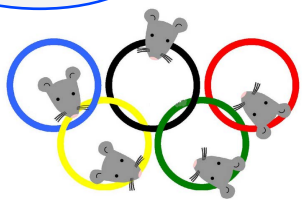
桐生市男女共同参画情報紙　2020年1月

第21号



はじめよう

ジェンダーバイアスは なくならない？

私たちが目指す「男女共同参画社会」とは、男女が対等な立場のもと、自らの意思によって、政治的・経済的・社会的な活動などに計画段階から関わることができ、かつ共に責任を担うべき社会です。しかしながら、私たちの周りには多くのジェンダーバイアスが存在しており、それらが男女共同参画社会の実現を阻んでいる状況にあります。 ジェンダーバイアスとは、「男らしさ」「女らしさ」などの男女の役割に関する固定的な観念や、それに基づく差別・偏見・行動などのことをいいます。

家庭、地域、社会、学校、職場において市民の皆さんが感じている「ジェンダーバイアス」について聞いてみました。

家庭で・・・

- 家事全般、女性が担う家庭が多い。
- 介護も女性が担うことが多い、特に年齢の高い方に多い。
- 配偶者を指す言葉について、夫と妻の間に上下関係があるかのような表現が多い。
  ～夫のことを：旦那、主人、亭主など。
  ～妻のことを：女房、家内、嫁など。
- 他人の配偶者の呼び方には「ご主人」「旦那さん」「奥さん」「嫁さん」など、バイアスのかかった言葉しか存在していない。

地域・社会で・・・

- 国、市町村の議会で女性議員が非常に少ない。
- 桐生市では、現在まで、市長、副市長、教育長、消防長、今まで全て男性。現在、市議、区長はどちらも女性1人。
- 新聞のお悔やみ欄では、以前は男性に氏、女性にはさんを付けていたが、最近は多くの新聞で男女共にさん付けになっている。一部の新聞では、以前のまま変えていない。
- 防災会議や避難所の運営側に女性があまりいない。そのために女性のプライベートな部分の配慮が足りていない。

学校で・・・

- 幼稚園・保育園などで病気の子どもを迎えに行くのは母親が多い。
- あぐらはお父さん座り、正座はお母さん座りなどの言葉が使われる保育園もある。
- 理数系の教師に女性が少ない。
- 他県から引っ越してきた人が、群馬県内に男女別学の高校が多いことに驚く。
- 中学校や高校の制服は、女子はほぼスカートと決まっている。

職場で・・・

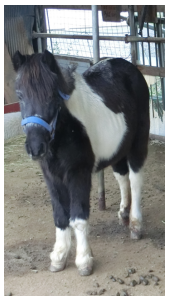
- 性別によって、昇進のスピードに違いがある。
- 責任のある仕事は男性に任せると考えている人が比較的多い。
- 今だに、女性がお茶を入れている所もある。
- 子どもが病気の時の世話や親の介護をする為に休むのは女性が多い。職場で、男性が休んで育児や介護する環境が整っていない、理解がない。
- 「男性は期待値で昇進、女性は実績で昇進」という傾向が企業などにはある。
- 女性は、「交渉力」「ビジョン構想力」等を付けるための、経験の場が与えられてないために、重要な役職につくことに躊躇してしまう。

ジェンダーバイアスにとらわれず、自分らしい仕事をしている５名の方々にインタビューをしてきました。

20～30年前なら男性の仕事、女性の仕事と、多くの人が当たり前と思っていた仕事、消防士やコンクリートミキサー車の運転手、看護師や保育士などの職場が変わってきました。男女の垣根がなく、多くの方が生き生きと活躍していました。

保育教諭　立石　大河さん　34歳
おおぞら幼保園（副主幹教諭・環境整備担当）勤務

左は船津さん、右は立石さん



園庭の動物たち

私自身も、この広い園の豊かな環境で、動物や植物、昆虫たちに囲まれて育った一人です。そんな幼児期の担任の先生に憧れて、小学生の頃からこの職業を希望していました。

専門学校時代には、1学年60人中10人が男性でした。この園に入った時は「男性1人だから道を開いていこう」という強い気持ちになりました。

最初は、子どもとの接し方や先生たちとのコミュニケーションの取り方で、自分が男性だからと意識してしまい苦労しました。

年を経ることで後輩も増え、指導的な立場になりました。コミュニケーションを大事にし、人間観察や言葉選びに気をつける。否定はしない、自分のやり方を見つけて、自分で考え、行動する。オンリーワンの指導や保育を心がけています。子どもも大人も根本は一緒だと考えています。

子どもの成長段階は戻ってこない。１分１秒がその子の成長への重さ、その大切な時を一緒に過ごせることは、お金に変えられないやりがいのある仕事です。時間を忘れるくらいのめり込める楽しい毎日です。日々勉強をし、知識や経験を子どもたちに伝えられたらいいなと思います。

プライベートでは、保育士の妻と、2人の子どもを育てています。子どもが病気の時などには、私も有給休暇をとって世話をします。私たちの働き方が、周りの人の参考になればとも思います。

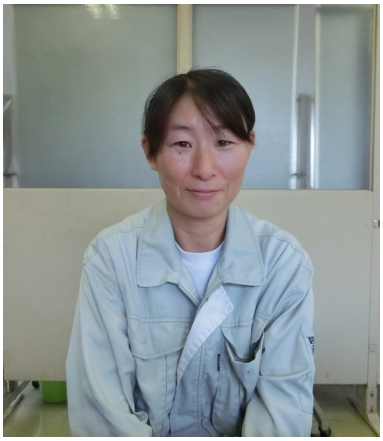
保育教諭　船津　恭平さん　25歳
おおぞら幼保園（2歳児担任・環境整備担当）勤務

高校生の時から、地域ボランティアで青少年活動をしていました。そのような経験もあり、将来は、福祉や教育の道にと思うようになり、大学は保育学科へ進みました。そこでは男性が25人で全体の２割程度でした。保育実習でいろいろな園に行きました。その中で、この園は、動物や昆虫に囲まれた自然の中で、子どもたちがのびのびしている姿や、男性保育士に配慮されたトイレや着替えの設備も整っていたところが良いと思いました。

この仕事に就いた当初は、ピアノなどの技術面や子どもや保護者との関わり方で苦労しましたが、しだいに子どもを通して保護者とコミュニケーションをとることができるようになりました。子どもの話の中に自分の名前が出ると聞いた時は嬉しくなりました。

魚の飼育が好きなので、子どもたちと一緒に楽しくメダカや金魚を育てています。

コンクリートミキサー車の運転手
井坂　友美さん　40代
北関東秩父コンクリート(株)桐生工場　勤務



井坂さん

今の私があるのは、20代の頃の父親のひと言がきっかけでした。
「これからは女性も大型免許を持っていた方がいいぞ。」と言って大型免許を取らせてくれました。
現在、高校生と大学生の2人の子どもを育てる中、いくつかの職業を経験しましたが、教育費等がかかるようになった時期に、金銭的にもステップアップの必要性を感じ、大型免許が使える今の仕事に就きました。

ミキサー車なので、建築現場の狭いところへもコンクリートを運ばなければなりません。難しい運転技術を要するのですが、日々精進だと思っています。
建築関係は男性の多い職業なので、最初はビクビクしていましたが、職場の皆さんは優しい方ばかりです。この仕事では男女の垣根がなくなってきていると感じます。
建築物の基礎に使われるコンクリートを運ぶことにやりがいを感じます。これからみんなが何十年も利用する市民体育館の建設に関われることも幸せです。

うちの営業所には、ミキサー車の運転手の女性は私1人ですが、みどり市のいくつかの会社には何人も女性が働いています。ミキサー車の運転は重労働ではないので、女性の職業として、いいのではないかと思います。もっと早くこの仕事に就けばよかったと思いました。

看護師　　古澤　悟さん　　41歳
桐生厚生総合病院（脳神経外科）勤務

手に職をつけられる職業を考えていた時に、高校のサッカー部の先輩に、「やりがいのある仕事だから」と誘われたのが看護師になったきっかけでした。
看護学校で勉強している頃は、男子は1割くらいしかいませんでした。この病院に入った11年前は、男性看護師は病棟で3人くらいでしたが、それでも多い方でした。今では各階に3～4人くらいいます。

最初の頃は、患者さんも男性の看護師に慣れていないせいで戸惑いも見られましたが、男性女性関係なく、その都度患者さんの気持ちに臨機応変に対応しています。
患者さんの回復過程など日々変化が見られ、自分の看護一つで容態が変わってしまうこともあり、やりがいもありますが重い責任もあると思います。
日本DMAT（災害派遣医療チーム）の資格を取得し、2016年の熊本地震の被災地へ病院支援に行ってきました。このような経験も看護師を目指している後輩たちのために生かし、これからより働きやすい環境を作っていきたいと考えています。

家庭に帰ると、3人の男の子の親として、同じく看護師をしている妻と共に、育児休業や有給休暇もとり、家事や育児に取り組んでいます。

古澤さん

消防副士長　　園田　茜さん　　35歳
桐生市消防本部（総務課）勤務

園田さん

私が消防職員を目指したきっかけは、消防に火災を未然に防ぐための予防業務という仕事があることを知り、大学で法律を学んだ経験を生かせるのではないかと考えたからです。

2010年4月に桐生市消防本部初の女性消防職員として採用され、最初に配属された桐生みどり消防署では、24時間の交替勤務で現場活動に従事しました。
その後、日勤の予防課を経て、昨年4月から総務課に異動しました。産前産後・育児休業を経て、現在は1歳の男の子の母として、医療従事者の夫や両親のサポートを受け、仕事と育児に奮闘する毎日です。

現場活動の中では、男性との体力差を感じますが、女性ならではの視点を生かし活動するように心がけています。救急車で現場に駆け付けた時、市民の方の不安に寄り添い、感謝の言葉をかけてもらえた時は、この仕事に就いて良かったと感じました。
現在の部署は女性1人ですが、何でも話せる信頼関係が築かれていて働きやすい職場です。

桐生市では、消防職員217名の中、女性の消防職員は現在5名と少数です。男性のイメージが強い職業ですが、女性も活躍できる場がたくさんあるので、是非、消防職員を目指してほしいと思います。

「世界から見た日本の男女格差」

世界経済フォーラムは2019年12月に「世界男女格差報告書」を公表し、その中で、各国における男女格差をはかるジェンダーギャップ指数を発表しました。この指数は、政治、経済、教育、健康の4分野のデータから作成されており、日本の総合スコアの順位は、153カ国中121位となり、前年の110位から大きく下がりました。世界の国々と比較しても、日本はジェンダー平等について大きく遅れをとっているといえます。

国連が国際目標として掲げているSDGsにおいても、ジェンダー平等は、5番目のゴールに掲げられると同時に、分野横断的な価値としてSDGsの全てのゴールの実現に不可欠であることが明記されています。日本においても、世界の国々と共にジェンダー平等を実現していくために、一人ひとりが意識を持ち、あらゆる場面での男女格差を無くしていくことが必要です。

SDGs「持続可能な開発目標」とは・・・

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するため、環境や貧困、教育などの17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

編集後記

今回のジェンダーバイアスについて、まだまだ女性だから、男性だからこうあるべきと考えている人や無意識の思い込みをしている人もいました。全ての年代の人が変わらなければと考えます。

編集委員長　武井由紀子
編集委員　深澤秀子
〃　金子眞知子
〃　新井弘枝
〃　福田恵子

編集／「はじめよう」編集委員　　発行／ 桐生市市民生活部市民生活課